

令和4年度 社会福祉法人 宇治福祉園事業計画

重点事業Ⅰ

【経営基盤の強化：安定的運営に向けた各事業の改善・連携・協働】

開設2年目となる京田辺市の「幼保連携型認定こども園・児童発達支援事業・放課後児童健全育成事業」をはじめ各事業の課題の発見・改善に努めるとともに、「生命を大切にす」教育・保育・福祉事業の実施と安定的運営の両立を図る。

- ① 公定価格に加え、さまざまな補助事業や制度を活用し、あたたかい教育・保育・福祉事業の充実に努めながら、利用者及び希望者とともに子どもの福祉の向上と増進を図る。また、正規職員数に見合う非常勤職員の確保に努め、多様な人材の確保と多様な働き方、適切な人員体制及び経営・財政基盤の安定を図る。
- ② 京田辺市の新規事業が2年目となり、園児数の増加が見込まれるものの幼児クラスを中心に定員に至っていないため職員の適正配置が困難である。ひきつづき園児の確保に努める。また、制度が異なる3事業が協働し、一体的運営の工夫をしながら人件費率を少しでも引き下げるよう努める。
- ③ 出生数が減少している中宇治地域における園児の確保、特に0歳児の確保が急務である。昨年度に引き続き子育て支援拠点や園見学などにより、地域貢献に努めるとともに、教育・保育の質・内容について直接的に発信する。また実践と合致した効果的な情報発信についても検討を加え、積極的に実施する。
- ④ 宇治市及び京田辺市の子育て関連計画及び障害児・者福祉計画などから地域のニーズ分析を行い、必要な事業及び機能について「ファミリーサポートセンター」「元気ひろば」「自然体験の家」などの独自のリソースを有効活用する。

重点事業Ⅱ

【良質な教育・保育・福祉の探究と魅力ある職場、広報、人材確保・育成】

子どもの幸せづくりを真ん中に「やりたい」から「やりがい」へ、さらには一人一人の職員自らが「生きがい」を実感できるような職場風土を志し、醸成していく。それらの実践を通して、一人一人の特性を生かし合い、人間性を育み合いながら、生活状況、意向に応じた適正な業務・処遇改善の推進に努める。

- ① 令和4年度は新たに17名の新規採用職員を得ることができ、ほぼ希望通り

の人員配置が行えた。「生命を大切にする」法人理念を具現化する教育・福祉実践に相応しい人材に恵まれた。今後は職員増・規模の拡大に伴う人材育成が急務であるが、何よりも宇治福祉園のマインドを大切に日々の実践のプロセスを通じてリーダー・ミドルリーダーの育成を目指す。

- ② 法人理念が志す職員像の探究と合わせて、一人一人の職員の意向や特性を活かし、育み合いながら業務内容及び業務分担の改善を行う。また、そのセンスや考え方、認知についての差異やズレがあることは自然なものとして相互受容しつつも、それらを生かし合う風土づくりを目指す。
- ③ 休日・休暇の充実、労働時間の短縮と自由かつ自主的な活動の確保の両立を目指すとともに、それらを可能にする業務の見直しに努める。

重点事業Ⅲ

【「生命を大切にする」という法人理念から日常的な幸せの創造とともに、恒久平和の実現を志す教育・保育の原則及びスタイルの探究】

乳幼児期の生命を大切にすると子どもが真に自己を発揮し、その「特性や自分ならではのかけがえのない体験の意味」を生き生きと謳歌できるよう努める。一人一人が子ども時代を満喫し、「欲求・要求・意欲・やる気」や「興味・関心・好奇心」、「探索心・探究心」、「気づき・発見の喜び」など、記憶に残る原体験の場となるよう努める。さらに、民主主義の担い手として仲間とともに願いを実現していくスタイルを獲得していきながら、現在を生きる生命それ自身の流れとしての体験が感謝と祝福のうちに持続し得る教育・保育活動を志す。

- ① 養護を前提とした乳幼児教育・保育
養護は包容の創造、誰もが受け容れられて在る居心地の良い世界の実現
 - 『子どもは小さくても人間なのだから最初から心を込めて扱わねばならないし、まだ頼りない人間であるから何よりも安全を実感させてやるのが大切である。子どもは自分が安全に護られている、愛されていると感じるとき、無邪気に外に向かって動き出す（養護の役割）。』
- ② 環境を通じた乳幼児教育・保育・・・人間はもともと生きている根拠としての主体であり、その自由と権利が保障される。中動態で居る自由から、真の能動性が発揮される。偶然起こるコトと子どもや保育者が起こすモノやコトがどのように出会いメッシュワークしていくかについて着眼する。
- ③ その他、研究発表や執筆活動などを行う。（別紙資料参照）

教育の三要素である①世界づくり、②仲間づくり、③自分づくりの観点から

- 世界づくりは、周りの環境とのかかわりを通して、「生きているものどうし

の想像力」を働かせたり、「自らの想像力によって綴られていくかけがえのない価値や詩情に満ちた世界」を発見・創造することを通じて、世界をどこまでも愛し、創造する持久力を発揮していく道である。

- 仲間づくりは、人を愛し、人間として「誰もが居心地の良い」共生の仕方や共同体のあり方を探求しながら、恒久平和の社会を実現していく道である。
- 自分づくりは、先の二つのプロセスを通して自己の生きがいや生きる価値を見出し、自らの生を全うする道である。

※全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構研究企画委員として、滋賀大学准教授の山本一成氏の担当者として「Life（生活、人生、生命）を深める保育実践理論の探究」をテーマにフィールドの提供や研究協力を行う。

重点事業Ⅳ

【保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステム及び子育て支援に関するシステムの開発及び新規ツールの活用】

良質な教育・保育の条件とは何か、そのために必要な教育・保育指導計画や子どもの育ち・活動記録等について焦点を絞り、誰もが質の高い教育・保育実践へ貢献していくことができるよう努める。また、ファミリーサポートセンター事業の援助会員と依頼会員のマッチングシステムの早期運用に向けた取り組みを推進する。

- ① 保育の可視化、保育計画・記録・マニュアルの作成・更新・改善に努める。また、記録者の立場からの意見を反映するとともに、それらの要望の理由及び効果・目的について丁寧に聴取し、人材確保、人材育成、共同研究、ホーム・ページ、ソーシャルメディアの充実などに活かしていく。
 - ② 第三者評価の活用及びICT戦略と業務の改善、職場環境及び教育・保育環境の充実を図る。
- 京都介護・福祉第三者評価調査者の資格を有するスタッフが10名を超えたことを受け、評価事業を視野に入れた今後の展開を模索する。
 - 写真・動画と短いコメントで1年を振り返る「童心の四季」及び児童発達支援事業におけるドキュメンテーションを作成し、年間指導計画や実践研究素材として活用してきた。自然や社会などの環境にプラスして出現・生起する偶然のデキゴト及び環境に誘われ、好奇心を膨らませ、かかわり、意味づけ、楽しんでいく「子どもの姿」とその姿と連動して現れてくる「新たな保育環境」などとの関係及びそこで綴られていく保育の物語の文脈及び背景、価値についての言語化・可視化の方法について探究し、その一助としてのシステム開発への提案を行っていく。

重点事業Ⅴ

【子どもを真ん中にした地域公益活動・地域コミュニティの再生】

宇治市子ども・子育て支援計画、UDCU、京都府子どもの城事業、京都府社会福祉経営者協議会京都地域福祉創生事業と連携・協働のもと、拡張する学習を念頭に置きながら、地域公益活動に努め、可能性を模索する。

- ① 若年層が住みたくなる中長期的なまちづくりへの展望のもと、関係機関・団体と連携・協働しながら、新たなニーズの創出に向かう事業を試行・実施する。
- ② 居場所づくり事業・遊び場所提供事業・・・「みんなのきへ遊びにおいDay」はウィズコロナにおける通常開催のあり方を模索する。また、ファミリーサポートセンター・げんき広場など他の事業と連携しながら、宇治福祉園全体の事業内容の発信に努め、ニーズに応じた適切なサービスの提供に繋げる。
- ③ 子ども食堂は、子どもだけで訪れることができるよう日・祝日の開催も視野に入れて行う。平日は、惣菜提供に加え、地域のイベント等への出店や栄養士と協働した新たな献立の試行錯誤など、子どもの福祉拠点ならではの運営に努める。
- ④ 「宇治市子ども・子育て会議、宇治市社会福祉協議会、宇治市健康・食育アライアンス会議、宇治市障がい児・者計画推進会議、宇治市早期療育ネットワーク会議」などの各種会議の委員としてスタッフを派遣し、地域のまちづくりに貢献・参画する。(別表参照)

重点事業Ⅵ

【創立50周年事業として、これまでの実践の一部を記念誌、記念譜・音源として制作・配布…子ども・保護者・関係者位への感謝に代えて】

オリジナルの楽曲、鍵盤ハーモニカ譜、絵画、文章、写真などを素材に宇治福祉園ならではの記念事業を実施する。また寄付を募り、資金の調達と広報及び出会いと再会の契機とする。

以上、令和4年3月理事会・評議員会において決議したものに相違ないことを証明する。

令和4年3月29日
社会福祉法人 宇治福祉園
理事長 杉本一久